



K-1 トレンチ



K-1 トレンチ
後方部上段葺石・埴輪列



K-1 トレンチ
後方部下段葺石



K-2トレンチ



K-2トレンチ
後方部上段葺石



K-2トレンチ
後方部下段葺石



K-3 トレンチ
後方部上段葺石



K-4 トレンチ
(東側から)



K-4 トレンチ 4号墳
周溝内遺物出土状況
(西側から)



K-4トレンチ 4号墳
周溝内埴輪列（東側から）



K-5トレンチ
後方部下段葺石



K-6トレンチ



KB-1 トレンチ
後方部上段葺石・埴輪列
(調査中)



KB-2 トレンチ
くびれ部葺石 (南側から)



KB-2 トレンチ
くびれ部葺石 (西側から)



KB-2 トレンチ
くびれ部葺石（南側から）



KB-2 トレンチ
くびれ部葺石
最奥部コーナー階段状の
石の配列



KB-2 トレンチ
前方部葺石
区画石列と考えられる石の
配列



KB-3 トレンチ
くびれ部葦石（西側から）



KB-3 トレンチ
埴輪列



Z-1 トレンチ
後方部上段葦石・埴輪列
(調査中)



Z-1 トレンチ
埴輪列



Z-1 トレンチ
前方部石組遺構



Z-1 トレンチ
前方部西側裾部



Z-1 トレンチ
前方部西側裾部層位



Z-2 トレンチ
前方部葺石



Z-3 トレンチ
前方部北側裾部層位



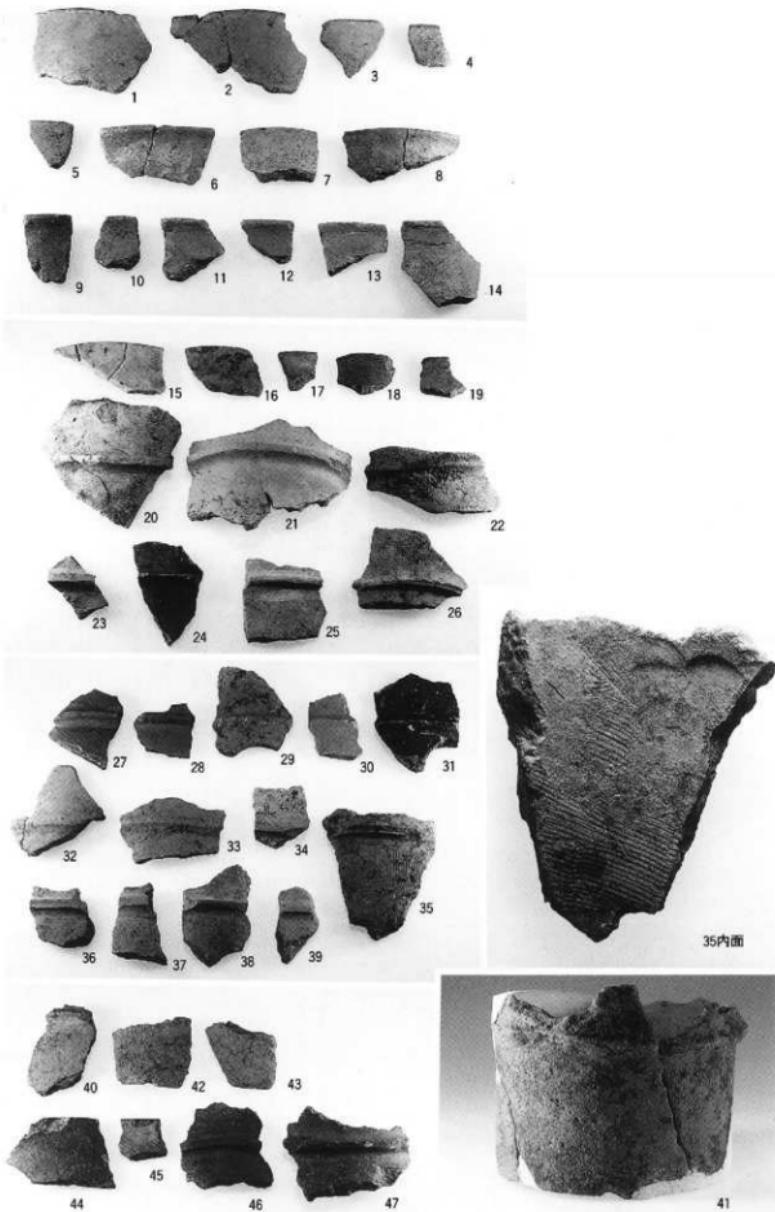
Z-4、Z-5 トレンチ
前方部葺石



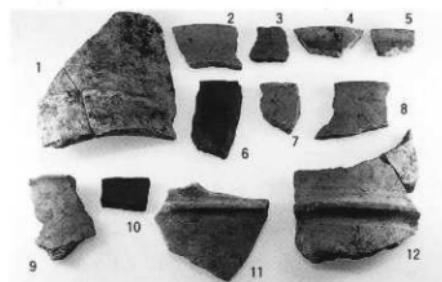
Z-4 トレンチ
前方部葺石



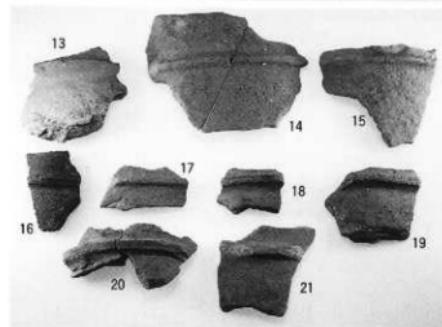
Z-5 トレンチ
前方部葺石



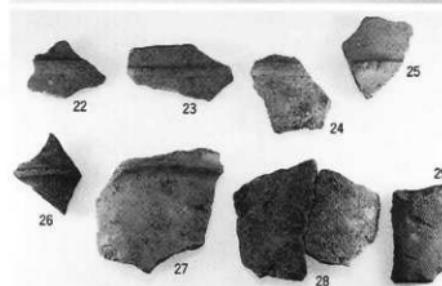
K-1 トレンチ出土遺物



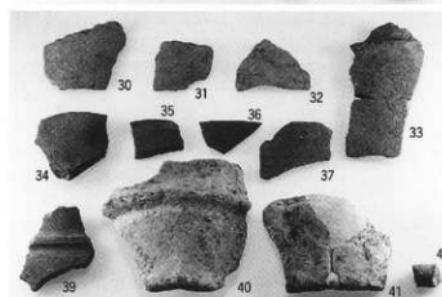
29内面



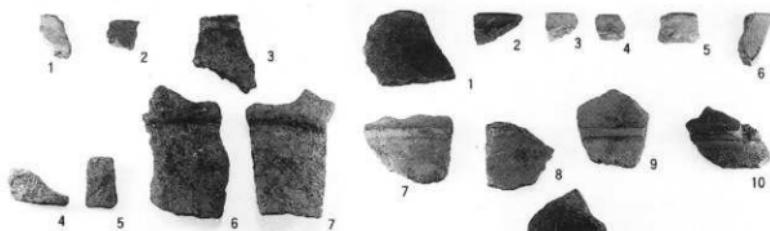
30内面



38

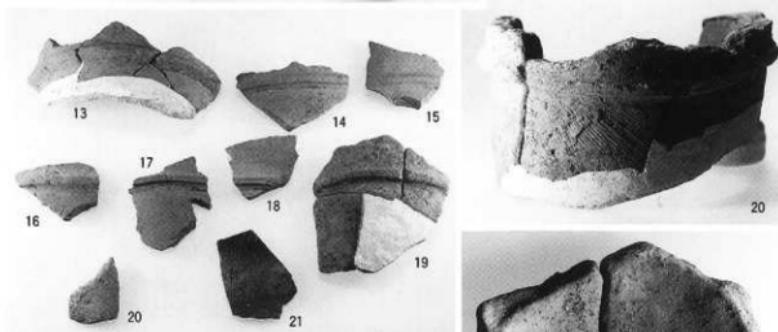
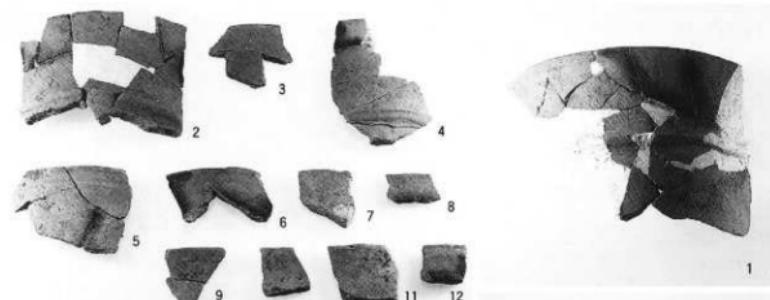


K-2トレンチ出土遺物



K-3トレンチ出土遺物

K-4トレンチ（2号墳）出土遺物

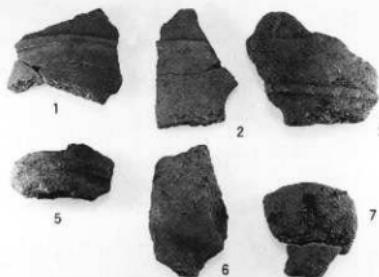


K-4トレンチ（4号墳）出土遺物（1）



20内面

K-4 トレンチ（4号墳）出土遺物（2）



4



7内面

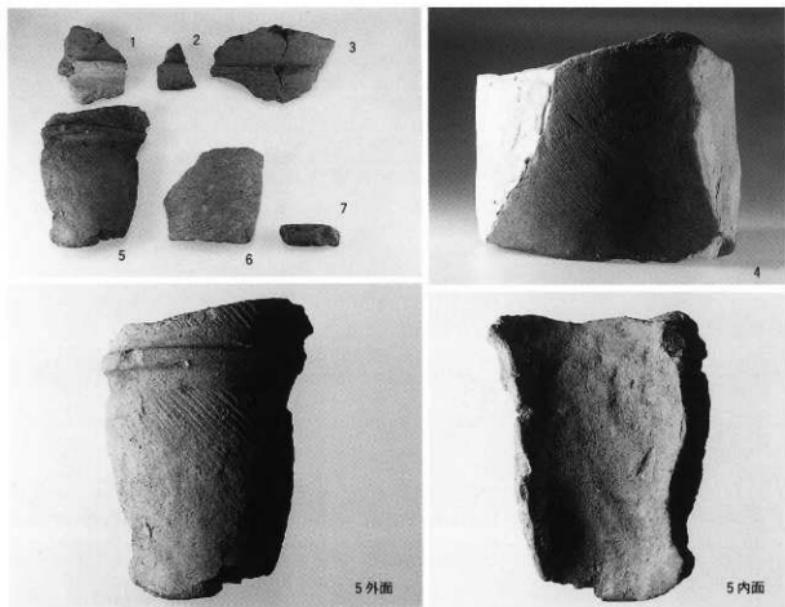


6内面

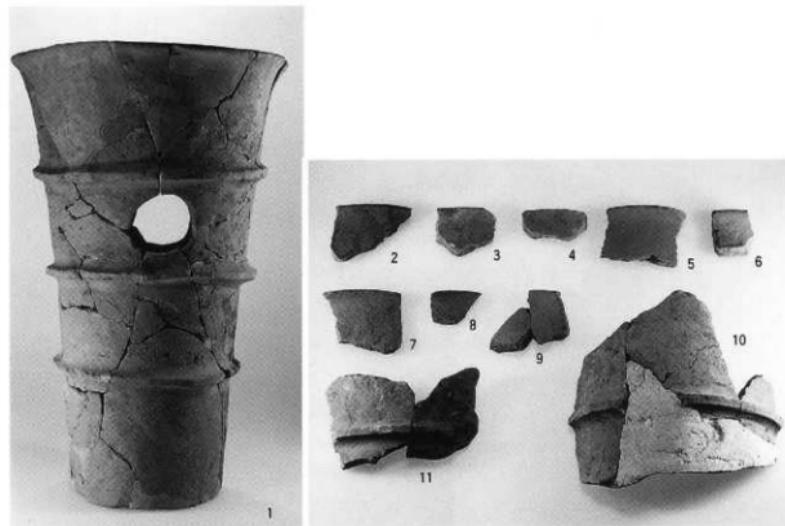
K-5 トレンチ出土遺物



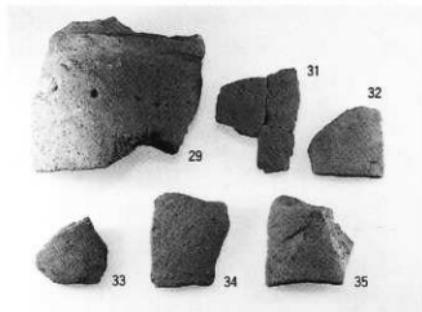
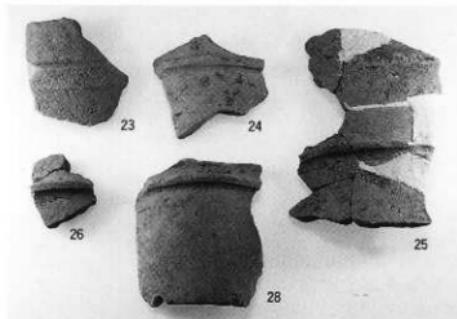
K-6 トレンチ出土遺物



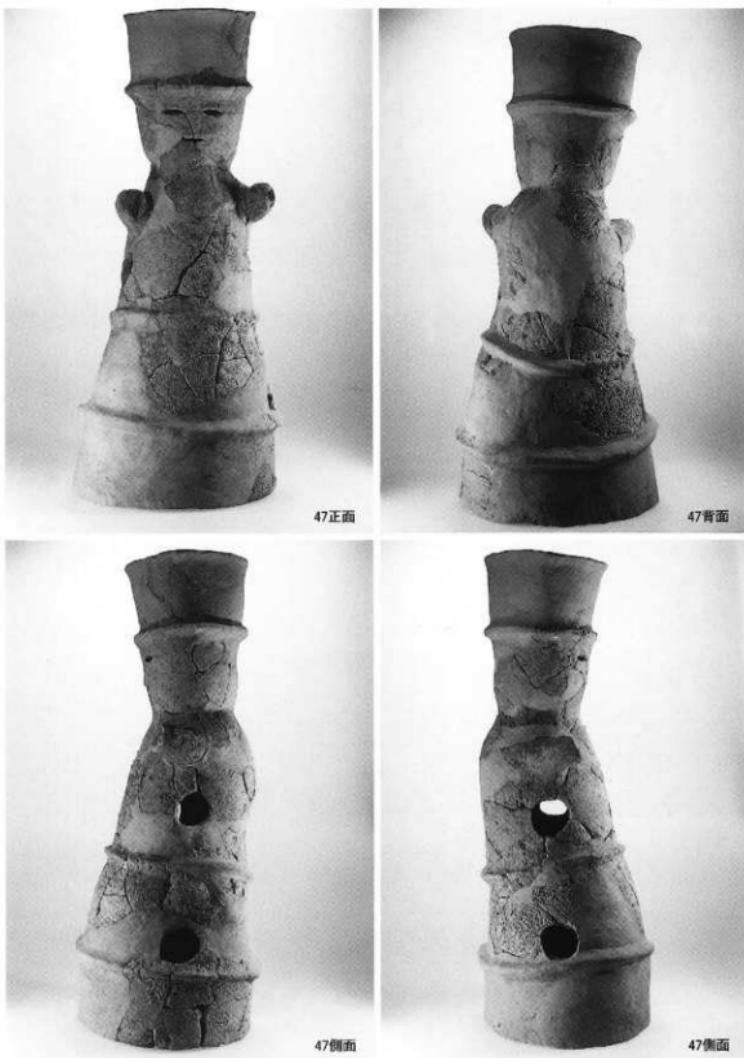
KB-1 トレンチ出土遺物



KB-2 トレンチ出土遺物（1）



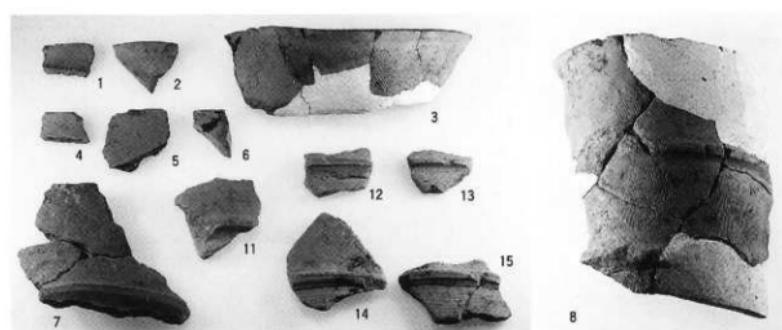
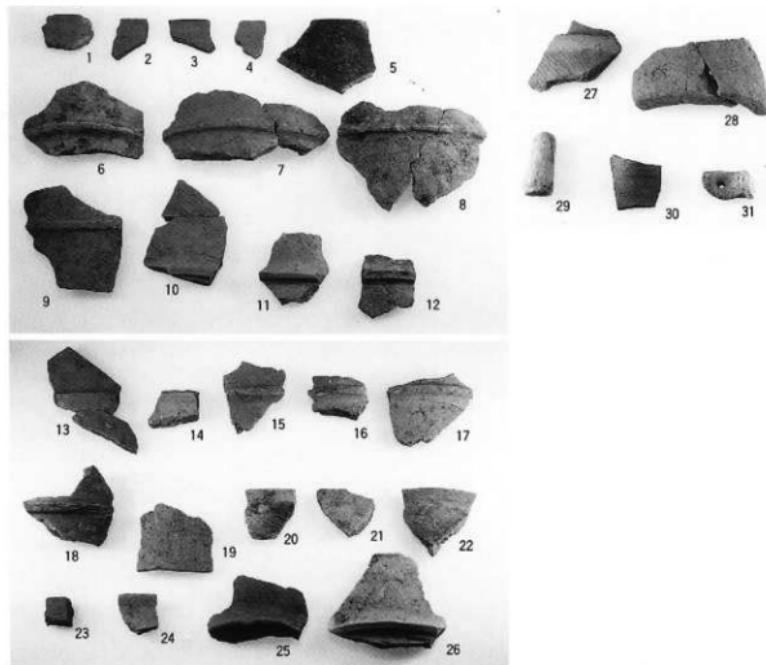
KB-2 ドレンチ出土遺物（2）

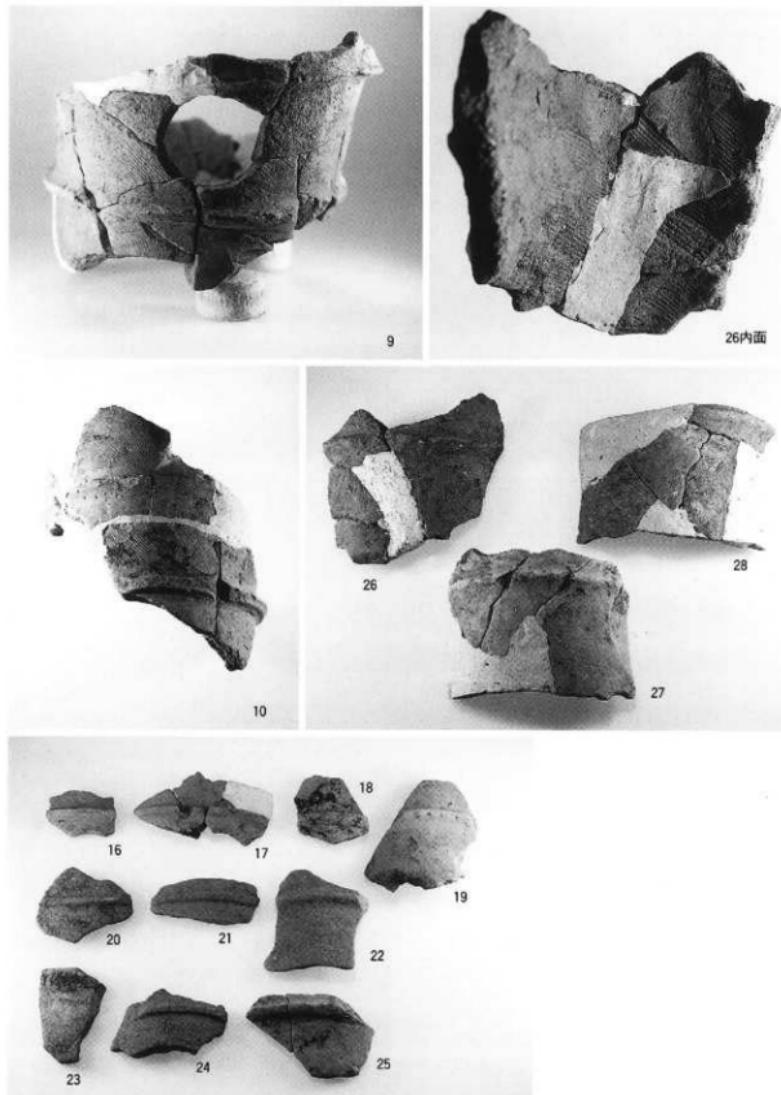


KB-2トレンチ出土遺物（3）

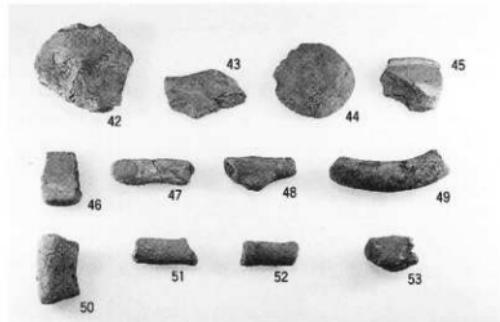
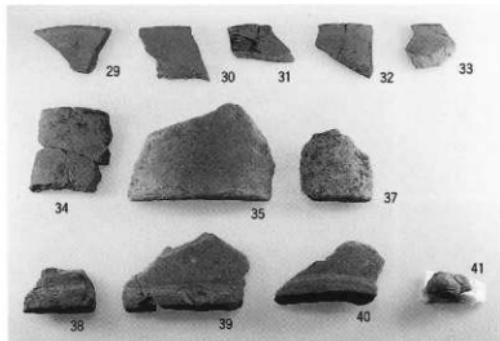


KB-2 トレンチ出土遺物 (4)

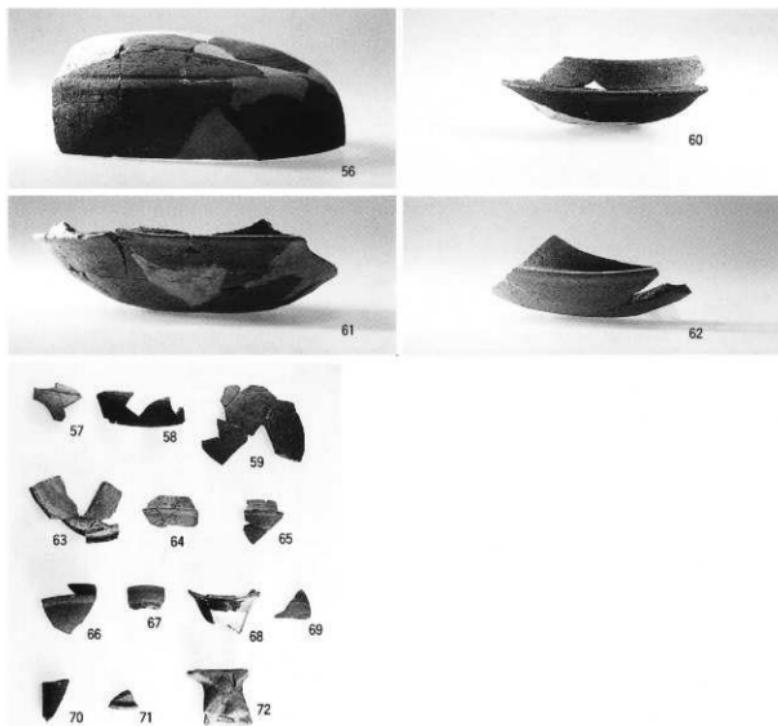




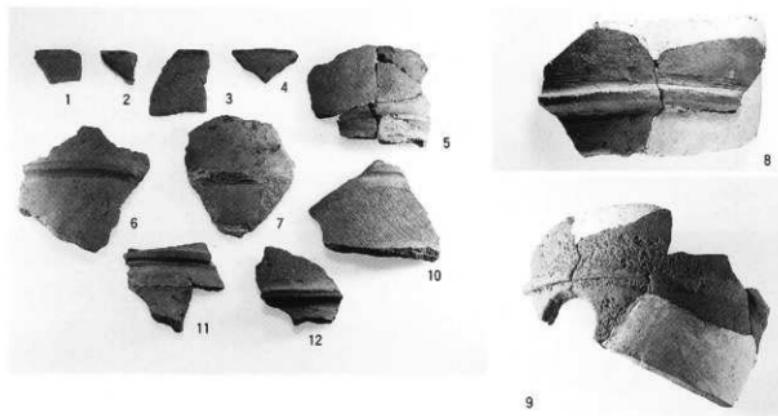
Z-1 トレンチ出土遺物（2）



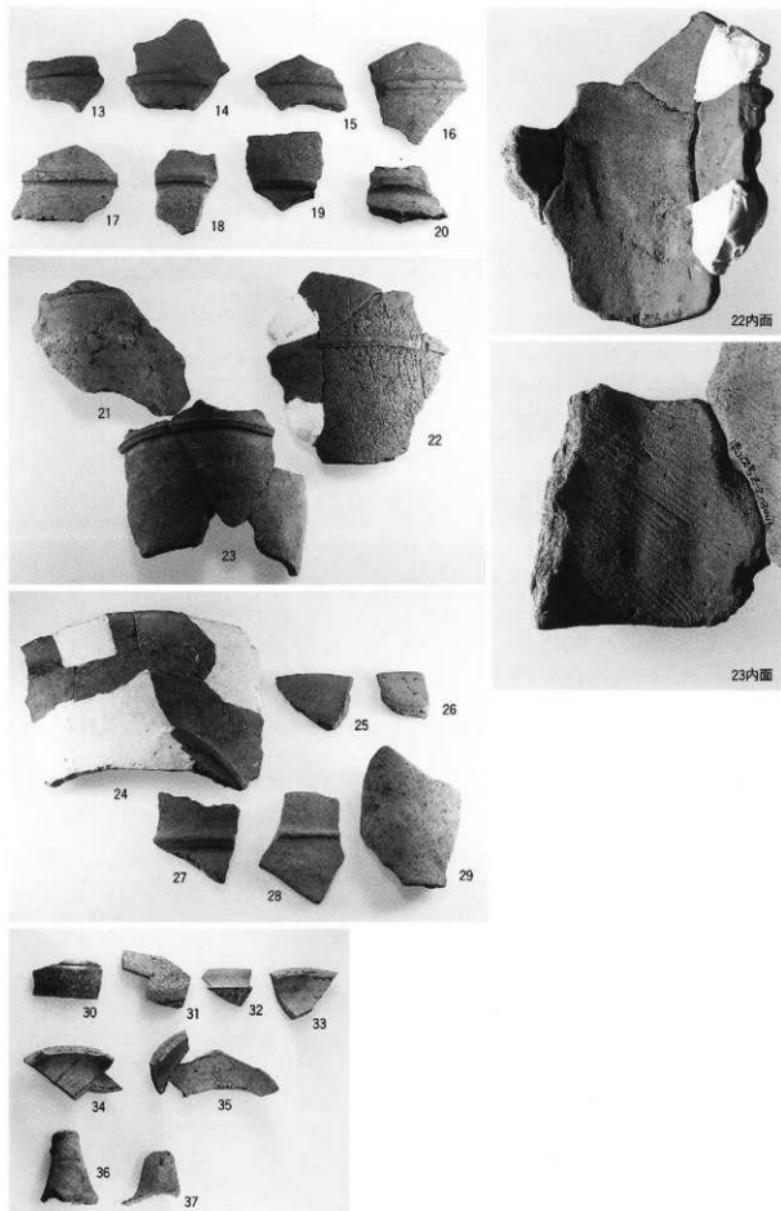
Z-1 トレンチ出土遺物（3）



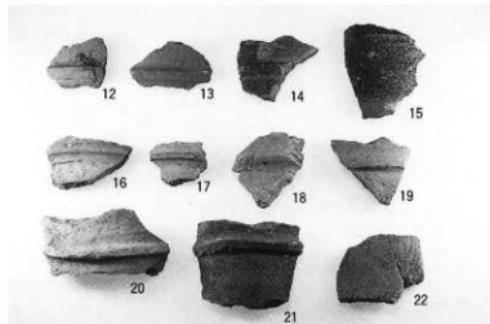
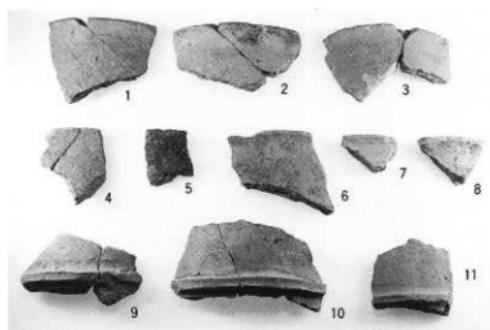
Z-1 トレンチ出土遺物（4）



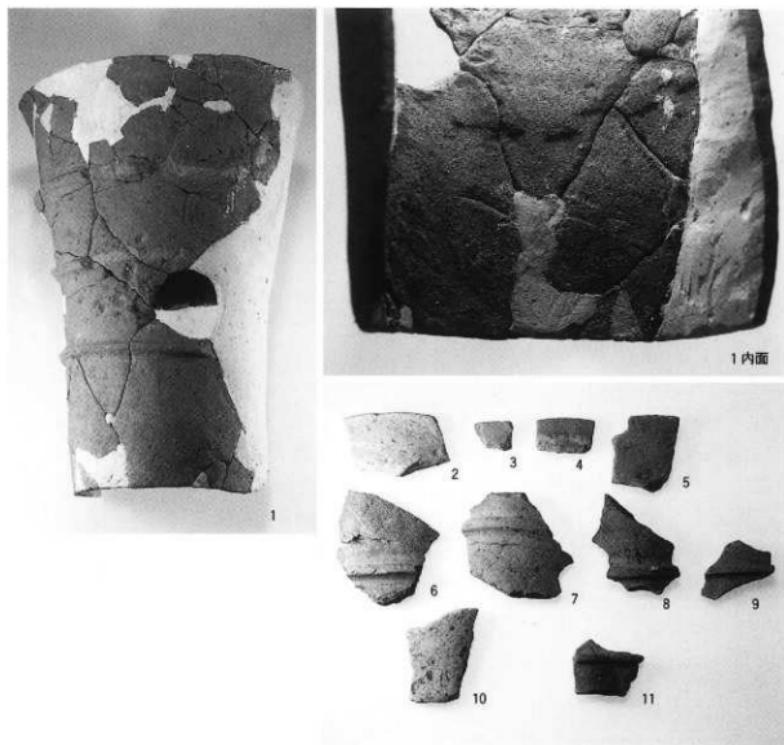
Z-2 トレンチ出土遺物（1）



Z-2トレンチ出土遺物（2）



Z-3トレンチ出土遺物



Z-4 トレンチ出土遺物

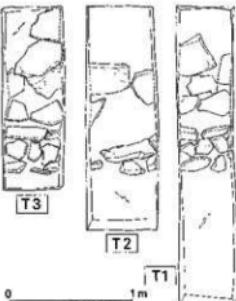
第2節 仲仙寺古墳群仲仙寺支群

(1) 仲仙寺支群9号墳範囲確認調査（第83・84図）

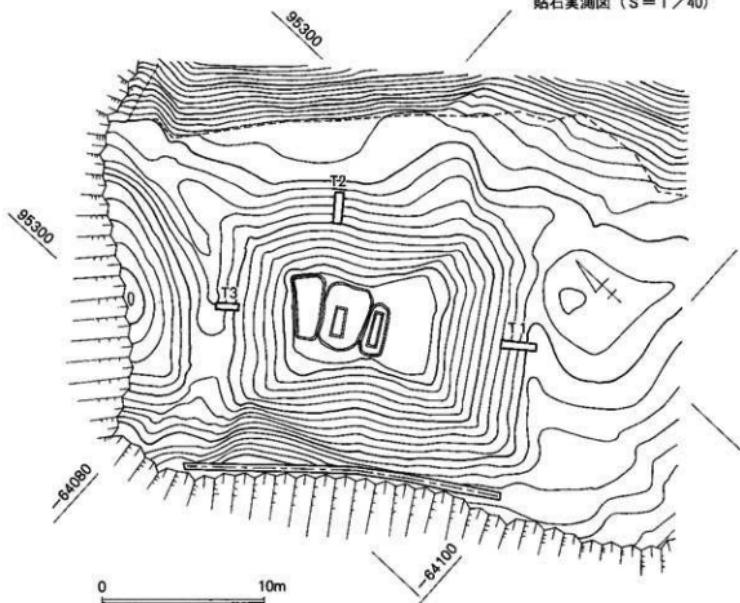
仲仙寺支群の整備において9号墳の墳丘端部を明示する工事を施行することとなり、そのため墳墓の正確な位置を探るために試掘調査を実施した。貼石の残存状況が悪い西南側斜面以外の3箇所にそれぞれ幅50cmでトレチを設定した。それぞれで貼石及び墳端を検出し、これを基準に墳丘明示工を実施した。なお、調査の結果は発掘調査時の図面とは完全に照合していない。これは発掘調査から整備されるまで6年間露出したままになっていたことから、貼石が自然崩落や遺跡を訪れる人によって外されたりしたからであり、また昭和51年度の整備工事の際に南東側の欠落転倒していた石列をもとになおしたり、東北側の斜面の石を旧位置と思える場所に移動しているからである。

(2) 仲仙寺支群8号墳測量調査（第85図）

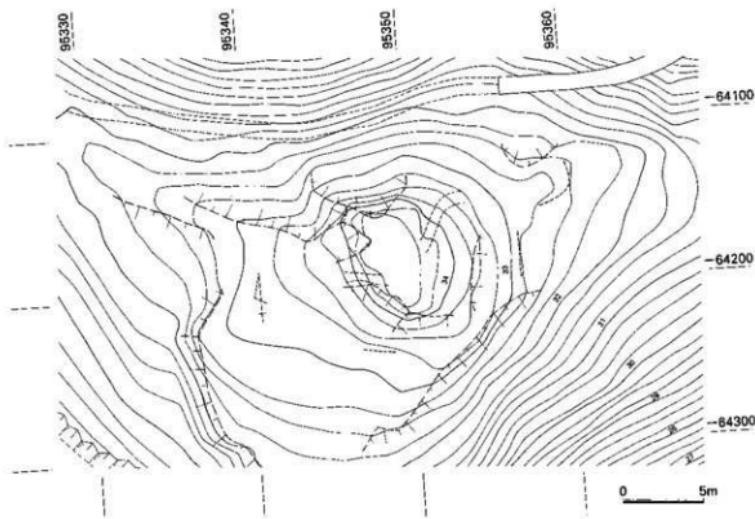
仲仙寺支群の整備に伴い、8号墳の範囲を確認するために平成13年度に測量調査を実施した。8号墳は丘陵の最高所の標高33m付近に築かれている。墳丘は半壌しており、東北部は比較的残り



第83図 仲仙寺支群9号墳
貼石実測図 (S=1/40)



第84図 仲仙寺支群9号墳トレチ配置図 (S=1/300)



第85図 仲仙寺8号墳地形測量図 (S = 1/350)

がよいのに対し、西側は大きく削平を受けている。墳丘の残りの良い墳丘北東隅がわずかながら突出しており、四隅突出型墳丘墓の可能性を考えたい。現状の規模は、東西11.5m以上（突出部を含まない）、南北約11.0m、高さ1.75m、突出部の長さ約3.5mを測る。9号墳の発掘調査時（1970年）には墳丘の西側斜面に上器片が認められていたが、今回の測量調査では表探遺物を見つけることは出来なかった。また、墳丘裾付近には扁平削石が存在するが、本墳墓に伴うものかどうかは不明である。

(参考文献)

- ・島根県古代文化センター、島根県埋蔵文化財調査センター『島根県古代文化センター調査研究報告書16 宮山古墳群の研究』2003年
- ・島根県教育委員会『山曾志跡群発掘調査報告書—朝日ヶ丘団地造成工事に伴う発掘調査—』1989年
- ・島根県教育委員会『山代二子塚古墳蓋被事業報告書』2001年
- ・島根県立八雲立八雲記の丘資料館『黄金に魅せられた倭人たち』1996年
- ・川西安行『円筒埴輪鉢論』『考古学雑誌』19-3 1978年
- ・大谷晃二『出雲地域の須恵器の編年と地域性』『島根考古学会誌』第11集 島根考古学会
- ・藤永照隆『出雲の円筒埴輪鉢年と地域性』『島根考古学会誌』第14集 島根考古学会
- ・田辺昭三『須恵器大成』1981年
- ・安来市教育委員会『安来市造山古墳群発掘調査報告書』1992年
- ・安来市教育委員会『史跡仲仙寺古墳群 環境整備概要』1977年
- ・安来市教育委員会『仲仙寺古墳群』1972年



9号墳T1トレンチ貼石



9号墳T3トレンチ貼石



8号墳墳丘

報告書抄録

ふりがな	しせきあらしまこふんぐん・ちゅうせんじこふんぐん せいびじぎょうほうこうくしょ				
書名	史跡荒島古墳群・仲仙寺古墳群 整備事業報告書				
シリーズ名・番号					
編集者名	水口晶郎				
編集機関	安来市教育委員会				
所在地	〒692-0207 島根県安来市伯太町東母里580番地 TEL 0854-23-3316				
発行機関	安来市教育委員会				
発行年月日	2007年3月				
ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所在地	コード	世界標準座標値	調査面積	調査年月日
市町村	遺跡				
造山古墳群 2号墳・4号墳	しまねけん あやまし 島根県安来市 荒島町	32206	A66	X=-62780、 Y=93800	423m ² 2002年8月 ～ 2004年3月
仲仙寺古墳群 8号墳・9号墳	しまねけん かすがし 島根県安来市 西赤江町	32206	A59	X=-64090、 Y=95310	29m ² 2003年9月
調査原因	国庫・県費補助事業による遺跡の内容確認調査				
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺跡	主な遺物	特記事項
造山古墳群 2号墳・4号墳	古墳	古墳時代	前方後方墳・方墳	円筒埴輪・朝 顔形埴輪・形 象埴輪・須恵 器・土師器	1999年7月13 日国指定史跡 (名称:荒島 古墳群)
仲仙寺古墳群 8号墳・9号墳	墳墓	弥生時代	四隅突出型墳丘墓		1971年8月12 日国指定史跡

史跡荒島古墳群・仲仙寺古墳群
— 整備事業報告書 —

平成19（2007）年3月発行

発 行 安来市教育委員会
島根県安来市伯太町東母里580番地

印 刷 有限会社 赤徳印刷所
島根県安来市安来町1725番地
